

「平成17年版 働く女性の実情」のあらまし

I 働く女性の状況（平成17年）

- ① 女性の労働力人口は2年連続で増加し、労働力率は48.4%で8年ぶりに上昇（前年差0.1%ポイント上昇）。
- ② M字型カーブのボトムの底（30～34歳層）の労働力率は上昇傾向（本文図表1-1）。前年と比べ最も上昇したのもこの層で62.7%（前年差1.3%ポイント上昇）。

II 団塊の世代を含めた中高年女性の就業実態と意識

【 1 就業の状況 】

- ① 20年間で女性の労働力率は大きく上昇。特に40歳以上59歳までは高年齢層ほど上昇幅が大きく、男性の労働力率と対照的。55～59歳層で上昇幅が大きい（図表1）。
- ② 中高年（以下、45歳以上を「中高年」という）女性の雇用者割合の上昇幅は、特に55～64歳層が最大。中高年女性の働き方は家族従業者から雇用者へシフト（図表2）。
- ③ 就業者全体に占める中高年女性の割合が高いのは、産業別では、医療・福祉、繊維製品製造、食料品製造等、職業別では、家庭生活支援サービス等。今後、担い手の確保が課題となる可能性も（図表3）。

【 2 中高年女性の就業意欲 】

- ① 中高年女性の就業希望者数は男性を上回り、特に45～64歳層はどれも約60～70万人。60～64歳層は男性と大きな差はない（図表4）。
- ② 中高年女性の就業希望者の求職活動は積極的（本文図表2-25）。

【 3 中高年女性労働者の継続就業、定年退職 】

- ① 中高年女性雇用者の8割以上は「継続就業希望者」で、男性と違いはない（図表5）。
- ② 定年退職者に占める女性の割合は上昇（昭和63年20.6%→平成16年29.4%）（図表6）。
- ③ 女性は、男性に比べ定年後に会社のあっせんで再就職する者は少ない（図表7）。
- ④ 中高年男女労働者は娘にも息子にも、働くことの「心構え」「おもしろさ、大切さ、大変さ」や、「組織でうまく仕事をするために必要な知恵、人間関係など」を最も伝えたいとしている。次いで中高年女性労働者は中高年男性労働者よりも、娘に「女性も家庭にとどまらず、積極的に仕事をすべき」を伝えたいとし、息子に「女性が出産・育児によって仕事を辞めることのないよう男性も協力すべき」とする者の割合が高い（図表8）。
- ⑤ 中高年は男女とも6割が健康面の不安ありとしている。その内容の6割強が「心身ストレス」であるが、女性については50歳代の3割程度が「更年期障害」に不安（本文図表2-38）。

【 4 仕事と介護の両立 】

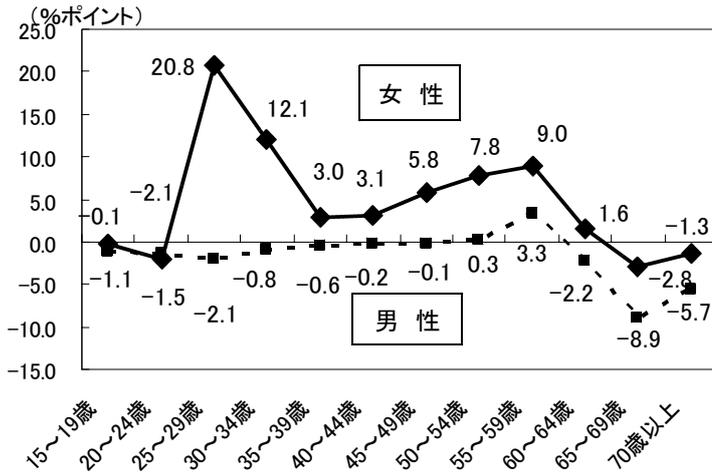
- ① 介護を行う男女有業者の中心は40歳代後半から60歳代前半（本文図表2-47）。介護を理由とした離職者数は女性が多い傾向が続いている。介護休業制度や介護保険の整備がなかったらもっと多くの離職者が出ていた可能性（図表9）。

【 まとめ 】

就業意欲が高く求職活動も積極的な中高年女性をいかに取り込むことができるかによって、我が国の経済社会の活力が違ってくる可能性がある。

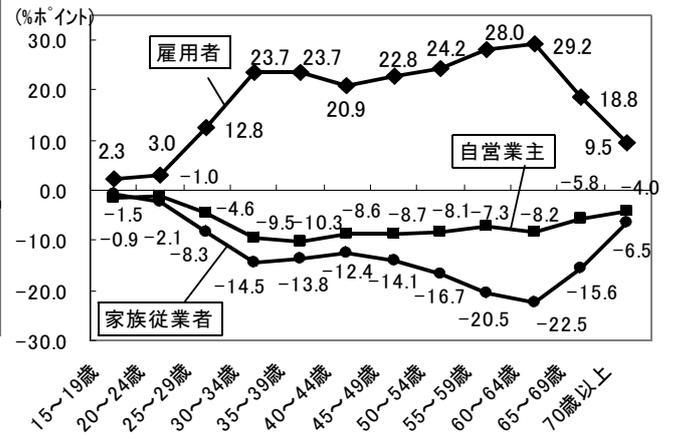
また、中高年女性の労働力に依存している分野において、技術や技能を備えた労働力を維持、確保していくことが課題である。

図表1 年齢階級別労働力率の変動
(昭和60年→平成17年)



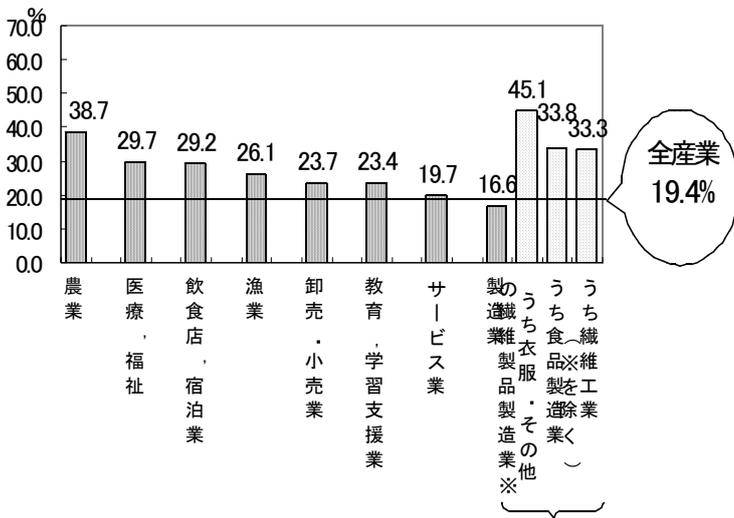
資料出所：総務省統計局「労働力調査」

図表2 年齢階級別女性雇用者
・自営業主・家族従業者割合の変動
(昭和60年→平成17年)



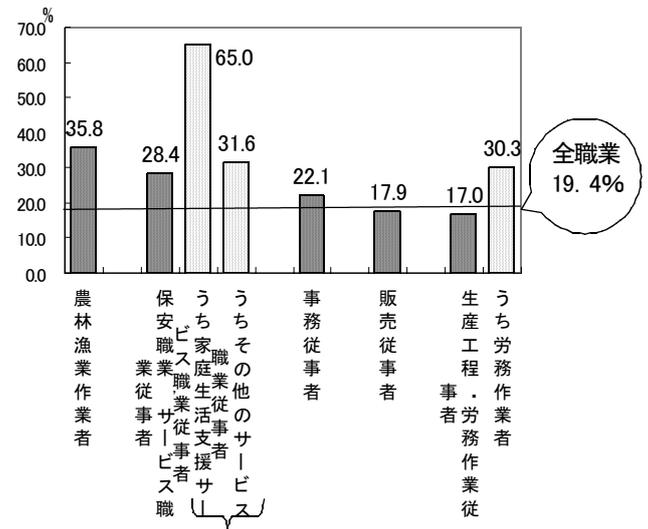
資料出所：総務省統計局「労働力調査」

図表3 就業者全体に占める45歳以上女性就業者割合
(産業別)



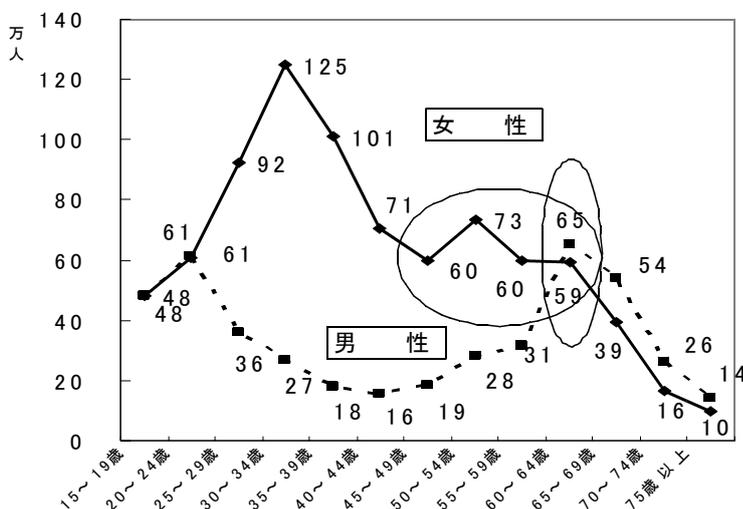
資料出所：総務省統計局「労働力調査」(平成17年)

(職業別)



(注) 棒グラフで黒は大分類、白は中分類を表す

図表4 男女別年齢階級別就業希望者数



資料出所：総務省統計局「就業構造基本調査」(平成14年)